

☆読書感想文の書き方 (基本編)

「こうでないといけない」という決まったものではありませんが、感想文集の校正時に話題になることを挙げておきます。

※ 1 題名について

題名は内容にふさわしいものを考えてつけることが望ましい。書籍名を題名・副題に入れる必要は特にない。
ただし、題名や副題で書籍名を用いる必要がある場合は、正確な書籍名を『』に入れること。

※ ただし、応募の際は、字数制限もあるので、題名・学校名・名前は「応募票」に書き、できるだけ一行目から本文を書いてください。

(必要なら、欄外に題名・学校名・名前を書いておく。) ※ 本文中に書籍名が入っているときは、「」でくくる。

2 引用について (左記の引用の仕方について、問い合わせもありませんが、各地域で採用の教科書に合わせてください。)

- ① 引用した部分に「」をつける。
- ② 行をかえて2〜3字下げて書く。

さ	う	だ
そ	か	に
り	こ	私
の	の	の
言	次	から
葉	には	だを
が	ま	おつ
ぼ	こ	かい
く	の	く
に	み	だ
考	ん	さい
え	な	い
さ	の	と
せ	幸	だ
る	せ	さい
	の	
	た	
	め	
	に	
	私	

ほ	こ	は
ん	ん	と
と	な	う
の	に	の
「	は	「
幸	ま	幸
い	こと	い
一	の	と
く	み	く
命	ん	に
を	な	考
す	く	え
て	を	さ
ず	す	せ
ど	て	る
う	ず	
か	ど	
こ	う	
の	か	
	の	
	私	

①

②

- ① 句読点(。と)・「」・『』・()・？・－などの符号は、一マスを使う。ただし、『』の場合は一マスでよい。
- ② 句読点や符号が行頭にくる場合は、前の行末に、文字といっしょに入れる。
- ③ — や…は、二マス使う。
- ④ 外国語などアルファベットを使って書く場合は、一マスに二字をあて、その部分のみ横書きにする。
- ⑤ 会話は原則として「」でくくり、行を改める。その場合、最初の一マスは空けなくてよい。(ただし、小学校については、一マスあける) また、会話のあとには、行を改める。

「	e	pl	ap	」
---	---	----	----	---

[illegible]

【主な符号の使い方】

な か て ん ・	① 名詞を並列列記する場合。 ② 日付・時刻などの略記の場合。	（ ） か つ こ	① 会話や語句の引用に用いる。 ② 特に注意を求めようとする語句に用いる。	「 」 か ぎ	① 引用文中にさらに引用部分が含まれる場合 ② 書名などを示す場合。	ふ た え か ぎ 『 』	① 挿入句の前後に入れる。 ② () の代わり。「つまり」の意に用いる	な か せ ん — :: :	① 文や語句の省略。 ② 会話文のとぎれ・無言を表す。	て ん せ ん
-----------------------	------------------------------------	--------------------	--	------------------	---------------------------------------	---------------------------------	---	----------------------------------	--------------------------------	------------------

○ 形式名詞は、ひらがなで書く。

○ 漢字表記

こと・もの・ため・とき・ところ
 本に出会う 子ども達 すてき (素敵×)
 してください 総合的な学習 (総合学習×)
 (優しさ) にふれる (自信・関心・力) を持つ
 お話ししながら (名＝話、動＝話し)

【注意する表現】

かなづかい	呼応①主語と述語	呼応②陳述の副詞	敬語	敬体と常体	誤字・脱字
近づく・少しずつ・のとおりに	・理由はくからです。 ・夢はくになることです。(くになり たいという夢を持っています。)	全然くない・決してくない	先生がおられるしいらつしやる 先生はおつしやられたしおつしやった	混用はさける。 ※感想文では、特に必要ないときは、 常体 (小学校高学年程度以上) が好 ましい。	出品する前に必ずチェックする。 支部審査・県審査等でも必ずチェック する。

※ 県審査にあがってくる作品でも多くの誤字・脱字が見られます。校内審査等ですっかりと確認をよろしくお願
いします。

※ 表現の人権的配慮にご注意ください。

☆読書感想文集の校正基準

1 漢字表記

- ・本に出会う ・ 子ども達 ・ すてき (素敵×)
- ・ しててください ・ 総合的な学習 (総合学習×)
- ・ (優しさを) にふれる ・ (自信・関心・力) を持つ
- ・ お話ししながら (名) = 話、(動) = 話し)

2 未 文 正 5 2

- 感想文集となつて県下に配布されるので、特に人権に
- 関わる文章には気をつける。
- 明らかに特定の人物が判明する文章にならないよう、表現の変更をお願いする。
- すべての名前は、応募票や学校に問い合わせるなどして慎重に確認する。

① 書籍名について

- A 題名は内容にふさわしいものを考えてつけるのが望ましく、題名・副題に書籍名を用いる必要はない。
- ただし、題名や副題に書籍名を用いる必要がある場合は↓正確に表記し『』でくくる。
- B 本文中に入っている↓「」でくくる。
- C 短評・プロファイル・概評等に入っている↓『』でくくる。
- ※ 長い題名のレイアウトは印刷業者に一任するが、スペース等の希望は入れておく。

② 符号について

- A 本文の最初や、段落がえをしたときの文頭に「」が入る↓半マスのみ空ける。
- B 会話の「」は、最初のマスから入れる。

・	「私	は	言
・	彼女が	た。	と
・			
・			
・			
・			

$$= \frac{1}{2} \pi^2 n^2$$

3 対象図書の表記（作品の後ろの部分）について

A 国内本＝著者名のみ（著・作は、省略）

B 翻訳本＝○○著または○○作（区別する）△△訳

C 短編集の中から一編を選んで書いている場合は、

本（短編集）の名前を表記する。

作品の題名にはその編の名前のみを表記する。

※ A・B・Cいずれも作者名『書籍名』（出版社名）の形。

4 その他の部分について

○ 名前・学校名の確認は、特に慎重に行う。

※ 佳作作品は県に上がっていないので、支部の段階で厳重にお願いする。

○ 類別の確認を慎重に行う。

○ 賞の確認をする。
（指定読書が自由に混ざっていることがあります。）

○ 入選者・佳作者名簿には、「分校名」は入れない。
短評やプロフィールの児童・生徒名は、原稿通りでよい。（ひらがな等も可）

○ 短評・概評の校正は、審査員の見直しはしないので、校正担当者で行う。大幅に直す場合は、確認をとる。
○ 概評の作品の教え方は、「二十一編」で統一する。